

新柳二十四時

午前六時

五更坊屋茶

四畳半の足取待合へ路次口
うら通んものへ。執事者乃
かりの関やれど。圍ひるあしを



解送し合々濃茶の苦味も
あゝ吸廻しうる口飯菓子
甘へくも見る娯楽も。珍
熱く沸釜の爐の火も落て
白くと朧と別々さきぬくと
臭くひらねく新関の載
うら儘下帰底腐と翌日の
浮名と後も氣強

足薪翁題



御届 明治十三年 浅草五丁六之千
月日 出版人 森本順三良 根津宮丞五之千
画二月 陽米治良

新柳二十四時 午前六時 文庫10-8345